

と社会的価値の向上の両立を目指す。第2次中計はこれらを達成す

の便利な野菜の素材・調味料に加え、戦略メニュー(オムライ

即食タイプの一日清の「そのまんま麺」シリーズを展開する。成長基

農家と学生つなぎ 地方経済を活性化

社会貢献型フードシ

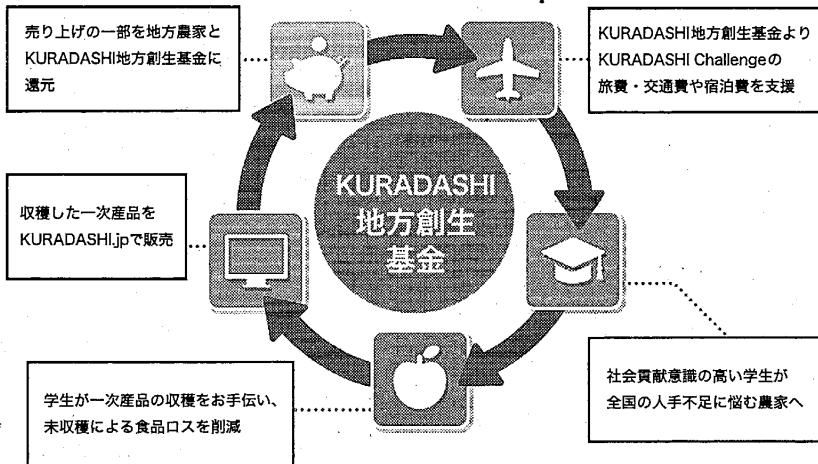
エアリンクプラットフ
ーム「KURADASHI
SHI.jp」を運営
するグラウクスは4
日、地方経済の活性化
と社会発展に寄与する
ことを目的とした「K
URADASHI地方
創生基金」を設立する
と同時に、学生を対象
とした社会貢献型イン
ターネット「KUR
ADASHI Cha
llenge」を新設
すると発表した。

「KURADASHI
I地方創生基金」は、
社会貢献意識の高い学
生と人手不足に悩む地
方農家をつなぐための
もの。基金が旅費・交
通費や宿泊費などを負
担し、グラウクスが新
設した社会貢献型イン
ターネット「KUR

「KURADASHI地方創生基金」設立 「KURADASHI Challenge」開始 グラウクス

ADASHI Cha
llenge」を通し
て学生を地方農家へ派
遣する。

「KURADASHI 地方創生基金」の仕組み



生産人口の減少と高
齢化により未収穫とな
っていた地方の一次産
品を学生が収穫し、

少子高齢化による生
産人口の減少と都心部
への人材流出で、20
40年には日本の自治
体の半数に当たる89
6が消滅の危機にある
といわれている。特に
地方経済を支える農業
の就業人口は、10年か
ら18年までの8年間で
約90万人減少し、今後
さらに減少することが
推測されている。

また、現在の農業従
事者の平均年齢は60歳
を超えており、労働力
不足による耕作放棄地
や未収穫作物が増加傾
向にあるため、地方の
経済力が低下してい
る。

同社では、こうした
現状を改善するため、
労働力となる学生が地
方へ行くきっかけとな
る。

今年度は、地方自
治体との連携を強化
し、インターネット
の受け入れ先を拡大す
ることで、地方経済の
活性化と社会の発展に
寄与する。

「KURADASHI
I.jp」は、「もっ
たいないを価値へ」と
いう考えの下、15年2
月に関藤竜也社長が開
始した。賛同メーカ
ーから協賛価格で提供を
受けた商品を購入者
(会員)へ販売し、売
上げの一部を社会貢献
団体へと寄付する社会
貢献型フードシェアリ
ングプラットフォーム

環境保護や動物保
護の団体、新たに設立
したKURADASHI
I地方創生基金など全
15団体を支援する。
(青柳英明)

委託した。特に米飭舞
は売上げ10%増、食卓
惣菜は40%増。また家
飲み増加を背景につま
み商品の売場づくりが
進み、品揃えを強化し
ている同社の家庭用つ
まみ商品は冷食で2・
6倍超、加工食品で4
倍超と順調に拡大して
いる。

中国農産品加工 包括提携



契約書に署名したサタケの佐々木
謙介取締役(左)と農産品加工研の朱
捷 社長(戴所長の代理)

サタケは、国内の民
間企業では初めてとな
る中国農業科学院農産
品加工研究所(農産品
加工研)と、穀物加工
分野における技術交流
を目的とする包括技術
提携基本契約を締結し
た。同研究所は、日本
の農林水産
中華人民共
村部に属し
ルで農業分
究を行ない、
の栽培から
管轄してい
中国の雑穀
新市場でノ